

協賛企業賞

地球温暖化を防ごう

朝日中学校 服部 百音

環境問題は、今、全世界で考えない限り、解決できない大きな問題となっておりますが、身近に感じられる事から常に意識をするべきだと思えました。この原因となったものは、一言でいうと文明の進歩、豊かな暮らしなのです。昔から人々はすばらしい文化や科学技術、医療など研究を重ねて「豊かな暮らし」を目指して来ました。皮肉なことにそれが裏目に出てしまったのです。私たちの身近にある、ほとんどのものが、自然からの資源を使つてできたものです。電化製品も、自動車も、冷暖房も。生活が楽になつている分、資源は減り続けているのです。森林の伐採のし過ぎ、化学物質による汚染、二酸化炭素の排出のし過ぎによる温暖化。森林がなくなると酸素がなくなります。土も悪くなつて植物が育たなくなります。水も汚染されたままになります。さらに、オゾン層が破壊されることによつて有害な紫外線を受け、病気にかかりやすくなり、生きていくのさえ困難な時代がやってくるかもしれません。自然や資源は、いつまでもあるわけではありません。かぎりある資源を大切にしなければならぬのです。ですから、もつともつと、私たち一人一人ができる対策を考えていかなければならないなと思えました。地球環境をこれ以上破壊しないようにするためにも、もつともつと資源を有効に活用していくことが大切になつていくのです。車でも最近は排気ガスを出すガソリンではなくもつとクリーンなエネルギーとなる物が出始めました。原発事故で多くの自然環境が破壊されて、今太陽光発電や風力発電などが見直されています。ごみもリサイクルが出来ます。分別やリサイクルにも積極的に協力することで環境破壊の防止になるのです。少し考えれば生活の色々な所に無駄があるなと思えました。ヨーロッパの国々は日本ほど湿度が高くないせいもあり、夏でもほとんどエアコンを使いません。冬も暖房はあまり入りません。だから夏は暑くて冬は寒く、自分が洋服で調節するのが当たり前になつていきます。街に出ても販売機がなく、夜には不必要な企業のネオンもありません。水は各自が持つて歩けばいいのです。ネオンがなくとも用があればそこには行けるのです。廊下や階段はたいいていの所がセンサー式で夜は人が移動する三十秒ほど電気がつくだけです。でもそれで何か不自由だということは全然ないのです。日本は節電と言う割にはものすごく電気の

消費量が多いと思います。夜のネオンやあちこちについている照明の半分はな
くてもいい物ばかりな気がします。慣れるまでは不便と思うかもしれないけれ
ど、電気に頼らない、便利過ぎない生活は出来ると思います。私たちがお世話
になっている地球が病気にかかっているのだから、育ててもらっている私たち
が出来る事はしないといけないと思います。町から販売機が減り始めた時が、
一人一人の本当の意味でのエコの意識が高まった時ではないかと思えます。